

おいらの エーデル

Oirano love edel vol.7

エーデル土山ショートステイ通信

いつもエーデルのショートステイ通信『おいらのエーデル』をご覧いただき、まことに有難うございます。季節はもう秋です。朝晩は特に冷え込むことがあり、体を冷やさないうように皆さまご留意ください。秋が過ぎれば、一年があつという間に終わりを迎えます。秋は一瞬で終わってしまうので、味覚や芸術、スポーツを存分に楽しみたいですね。エーデルでも季節を皆さまに感じていただけるよう、スタッフ一同努めていきます！秋をいっぱい楽しみましょう。

『ローソンお買物日記』

5月～9月にかけて、お楽しみ企画第一弾として「散歩&買い物」イベントを実施致しました。エーデル近くのローソンさんまで買い物へ。あいにくの天候で、慌ててエーデルへ戻ったこともしばしば。それでもたくさんのご利用者様に参加して頂きました。皆さん、喜んで頂けましたでしょうか？

普段、なかなか外出の機会がなくなってしまうがちです。少しでも外気の空気に触れることで、何かしらの感覚を呼び戻してもらえれば私たちにとっても、こんなに大きな喜びはございません。距離は、一キロも満たない、短い距離ではございますが、スタッフと共に行くお買い物、有意義で思い出に残るひと時にしたいと思います。よろしくお願ひします！

『ハンドマッサージはじめました』

我がエーデルスタッフ下岡がハンドマッサージを始めました。もちろん、講習を受けておりますので技術は保証致します。ご安心あれ！

ハンドマッサージは最もシンプルな癒しの技です。自然に相手と触れあうことができる、それがマッサージの特徴です。ハンドマッサージによって、血液循環が促されることで脳の活性化、冷えや肩凝りなどの改善が期待されるそうです。さらにスキんシップには、「愛情ホルモン」と呼ばれるオキシトシンの関与があると言われており、お互いの信頼感が醸成されます。

少しでも利用者様のリラックスや癒しに繋がるようこれからも探りまわっていききたいと思います(笑)(下岡)



奥村哲弥のコラム 第7回 『夕餉の涙』

黄昏時に景色がオレンジ色に変わる瞬間がある。夕焼けが沈み、あたりが闇に変わるその一瞬がまさにその時間だ。僕は、いつものように、妻の料理を作る音を耳にしながら、居間で一人、待ちわびる。僕の自宅の居間から、オレンジ色の閃光がまぶしい。うわっ、まぶしいな。そう感じながら、静かに夕餉が出来上がるのを待っているのである。これは夢だろうか。夢の世界で見た風景によく似てやしないか。幼子であった僕は、幼稚園の片隅の壁からオレンジ色の閃光が放たれるのを確かに夢の世界に見た。その光の中に近づくと、僕の家族や友達が楽しそうに笑っていた。そう、あの時の光。確かにあの夢の世界と似通った光だ。僕は幼稚園児の頃、それは無垢な子供だったと親からよく聞かされた。三人兄弟の末っ子であった僕は、人一倍のびのびと育てられたのであろう。何の不安ごともなく、とても幸せな時間を過ごしていた。しかし、今だに頭から焼き付いて離れない出来事が一つだけある。それは、夕餉の支度をしながら、一度だけ母が泣いていたことである。何の涙だったのか、今では見当がつかない。当時の僕は、ただひたすらに涙の理由を聞いた。親や大人が泣くなんて子供のころの僕にはとても想像がつかなかったからだ。結局、涙の理由は母が言ったのか、言わなかったのか今では思い出せない。その晩、僕は夢を見た。それが、前述したオレンジ色の光の中で家族や友達が楽しそうに笑っている夢だったのだ。その場面、夢だけは強烈に今でも記憶に残っている。オレンジ色の夕焼けが闇夜に変わる瞬間に、必ず思い出す母の涙。これは親を忘れるなという教訓なのかもしれない。